稚松会だより

第65号
発行所
福島県立白河旭高等学校
稚松会
編集兼発行人
稚松会会長
渡辺美恵子
㈲古楓堂堀川印刷所

生徒さんの作品より

近くを流れる谷津田川

1度は食べたことありますね。
ジャンボオムレツ！

第43回全国高等学校
総合文化祭美術・工芸展
2019「さが総文」
代表出品作品
「食　彩」

校内のどこかですよ。

再び笑顔で会えますように

昭和四十年卒
稚松会会長　渡辺　美恵子

２０２０年はオリンピックを迎えて、特にここ福島では、東日本大震災と原発事故から力強く立ち上がる復興福島を世界にアピールする様々なイベントも準備されていた年でしたが、思いもかけない新型コロナウイルスの発生が世界中を感染への恐怖に包み込んでしまいました。お陰ですべて中止になってしまいました。また、このウイルスの防御策としては密を避ける・話をしない・４人以上の会食をしない・大きな声で話さない・接触をしないと言った、およそ人として社会生活を送るのに必要不可欠な事をすべて禁止することでありました。本当に考えられません。

その様なことで、旭高校にも影響が及びました。先ず、春のダンスパーティーが中止となり各部活の大会なども中止となりました。生徒の皆さんは大変悔しかったことでしょう。生活面では、大きなマスクに顔の半分が覆われ、今や制服の一部のようになってしまい大変苦痛な毎日だったことでしょう。

我が稚松会も総会を中止せざるを得ませんでした。皆様には大変迷惑をおかけしましたことを、深くお詫び申し上げます。

しかし、この時間をいただき規約の見直しやより良い稚松会にするには……と役員の方々に意見を出し合っていただき、話し合いを重ねることが出来ました。より良い稚松会になる事を願います。

２０２１年は早くコロナが終息し、生徒の皆さんは学習に部活動に存分に取り組めること、我々は皆様方と直接お会いしてお話をしたり、大きな声で笑ったりしたいと願っております。

皆様くれぐれも体に気をつけ、コロナなどに負けないよう頑張りましょう！

逆境を力に変えて

校長　菊池　直之

稚松会の皆様には平素より、本校の教育活動に多大なるご支援とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。稚松会の活発なご活動の折に触れて、創立一〇六年の歴史の重みと皆様の母校への溢れる愛情と大きな期待を感じ、身が引き締まる思いでおります。

さて今年度は、新型コロナウイルスに翻弄された一年でした。緊急事態宣言の拡大により学校は、四月に一斉臨時休業になりました。生徒たちの大きな目標であるインターハイ等は全て中止となり、昭和二十六年から続く毎年恒例の「新入生歓迎ダンスパーティー」も中止を余儀なくされました。前例のない事態に不安や焦燥があったはずですが、本校の生徒たちは休業期間の前後も含めて、終始落ち着いて学習活動にしっかり取り組んでくれました。これは、昔と変わらぬ素直で勤勉な本校生の気質によるところが大きかったと思います。休業期間中、先生方もリモートで生徒たちに常に寄り添い、私たちは当たり前の日常の価値を再認識し、互いの絆はさらに深まりました。

二学期に入り状況も少し落ち着き、部活動や資格取得等において、本校生の顕著な活躍が見られたのはうれしい話題でした。新人戦県大会では、ソフトボール部が準優勝、剣道部女子団体は第三位となりました。また、英語弁論大会やビブリオバトルでの県大会準優勝、英検準一級に二名合格などの快挙もありました。さらに今年度、JRC委員会を中心に「SDGs 2020 in Asahi」というプロジェクトを立ち上げ、多くの生徒たちが主体的にボランティア活動に取り組んでいることも、特筆すべきことです。

先を見通せない混迷の時代を迎えている現在、地域社会において、未来を担う人材育成で本校が期待される役割は、益々大きくなっていくものと思われます。今後とも、会員の皆様の変わらぬご支援とご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

野球部 初勝利の思い出

旧職員　鑓水　実
（平成七年度～十二年度在職）

稚松会の皆様には大変ご無沙汰しております。私は平成七年度から6年間白女～旭高に勤務し、共学化一期生の担任を務めました。

思い起こせば旭高校として最初の入学式の3日後、ソフトボール部顧問として準備を進めていた私のところに、後に初代主将となる佐藤研二君たち男子9人が署名を集め、「野球部を作ってください」と申し出てきたことから、「野球同好会」がスタートしました。グラウンドも道具もない中、他校からのお古のボールやバットを寄付していただき、週末は合同練習をお願いするなどして何とか活動を開始しました。6月からは市内で社会人野球の指導者をしていた小松俊夫さんを監督に迎えましたが、白坂の運動公園が空いている日以外は練習場が確保できず、力不足から夏の大会への出場は断念しました。その後、地域からの情報を得て日東工器（当時は白河デンセイ）のグラウンドを借用する交渉に成功し、自分たちで土を入れ替え、バッティンググケージを組み立てるなど手作りで練習場を完成させ、本格的な練習がスタートしました。

そして2年目、新入生を迎えて初出場した夏の大会、日曜日の開成山球場でテレビ中継もある中、コールドで初勝利を上げることができたのです。「礎固き、我が白河の…」。白女時代から伝統の校歌を大声で歌う11人の笑顔は今も忘れられません（この年はもう一勝、翌年は一勝、翌々年はベスト16でした）。

あれから23年。当時一年生（後に主将）だった須藤孝昭君とは、現在、白河高校で同じ学年の担任として机を並べており、他のメンバーも全国の様々な分野で活躍しています。

今回、あの頃を思い出す機会を与えてくださったことに感謝するとともに、何もない所から全員がただ一つの目標に向って一所懸命に進んでいた草創期の姿を、少しでもお伝え出来たら幸いです。そしていつか『同窓会だより』に、「旭高校甲子園初出場！」の記事が掲載されることを心から願っています。

同窓生からの便り

「くすりをつくる」　エジプトに恋して

昭和54年卒　大戸和子

母校から東京の薬科大学に進学し、卒業後は鏡石町で三十七年間医薬品製造に携わっています。

会社が中外製薬からニプロに変わり、震災で甚大な被害を受け、と色々ありましたが、四年前から工場長を務めています。

若い頃、薬剤師の同級生から、鏡石工場で作る胃腸薬のお陰で失恋から立ち直れたと言われ、とてもうれしかったことを覚えています。

ニプロは世界九十ケ国にお届けする薬もつくる国内受託製造№1企業ですが、コロナ禍で一層社会貢献に努め、来年こそ還暦「耳順の会」の仲間と、新年会で皆様にお会いできるのをお待ちします。

平成54年卒　星野真由美

四十年目にして叶った夢。それは、エジプト考古学の第一人者であられる吉村作治先生と、偉大なる五千年の歴史を伝える古代文明の地エジプトを訪れるというものでした。

私は高校卒業後、東京の短大へ進学、会社勤務後Uターン、家業を継いでいます。仕事柄まとまった休日を取る事が難しい中、家族の理解や社員の協力のお陰で旅が実現できた事を心より感謝しています。揺るがず諦めず思い続ける事で夢が叶いました。毎日が感動の連続で、改めてエジプト文明の偉大さを実感できた素晴らしい旅でした。

新型コロナウイルスの一日も早い収束を願い、私を元気に幸せな気持ちにさせてくれるエジプトへの再訪に今から胸をときめかせています。

「巡り合わせ」に導かれ　音楽と共に

昭和61年卒　池田理恵

球技大会、文化祭、合唱祭。高校生活の思い出の多くはイベントと一緒です。『女子高』であったことに加え、美術・音楽を含む私立文系クラスの個性豊かな友は、その彩を一段と濃いものにしてくれました。

今年勤続三十年。九州・福岡のテレビ局に勤務しています。アナウンサーとして入社後、主だった部署に異動しながら様々な出来事や事件などを目の当たりにしてきました。学生時代には想像すらしなかった現在ですが、どれもが、高校時代の出会いのような折々の『巡り合わせ』に導かれたような気がします。

社会情勢を含め環境が目まぐるしく変わる中「普通」という言葉さえわかりにくく判断が困難な時代ですが、「人間万事塞翁が馬」。心は、希望に胸膨らませた高校時代にとどめながら、これからも嬉やかに楽しんでいきたいと思います。

昭和61年卒　平子ひさえ

「音楽家になりたい」。そう志したのは五歳のとき。幼い頃からピアノを習い、音大進学のためレッスンで東京に通っていた頃が懐かしい。高校時代は「白女合唱部」のピアノを担当。しかし、私が専門に選んだのは打楽器でした。音大卒業後にはシエナ・ウインド・オーケストラ打楽器奏者となり、在籍二十五年目で退団。そこから海外での仕事やソリストとしての仕事、そして母校国立音楽大学及び東京音楽大学講師として、また少し活動の幅が広がっているプロ生活三十年目の今に感謝。これからも微力ながら、国を越えて人と人とが繋がれるよう音楽と共に歩んでいきたいと思います。

イタリアと白河を音楽で繋いで

平成4年卒　藤倉牧子

白河女子高を卒業してから、東京の音楽大学へ進学し、またイタリアの歌劇場でもスタッフとして研鑽を積み、現在は上野にある東京文化会館の事業企画課に勤務しております。白河にコミネスができたことから連携事業の実現が叶い、昨年は自分が研鑽を積んだボローニャ歌劇場の弦楽五重奏を招聘し、東京文化会館主催東京音楽コンクール入賞の新進演奏家との公演をコミネスで開催させて頂きました。また二月にも、名実ともに世界一のテノール、フランチェスコ・メーリ氏のリサイタルをコミネスで開催いたします。ぜひお運び下さい。

令和元年度総会・稚松会　～ またこのように笑顔で集える日を願って ～

耳順の会の由来

「耳順（じじゅん）」とは、論語の「六十にして耳順（耳したがう）からきており、齢（よわい）六十歳の異称でもあります。

還暦を迎えた卒業生が稚松会の新年会懇親会の幹事（運営）を担うようになったのは、平成九年（1997年）の男女共学化により、県立白河旭高等学校が発足してから以降のことです。

当時の成田努校長先生と宍戸初子稚松会会長は、男女共学化に伴い、受験者の定員割れが生じることを案じ、歴史ある白女高の先輩方に申し訳ないとのことで、休みも返上して何回も各中学校に受験のお願いをして回られたとのことです。

功を奏して多くの受験生を募ることができましたことは、皆様もご存じのことと存じます。

成田校長先生におかれましては、これらの功績により県内の有名校への転勤の内示があったとのことですが、ご自身で県教育委員会に赴き、「歴史ある白河女子高等学校の男女共学化後の推移について責任をもって見届けなければならないので、退職するまで力を尽くしたい」との意向をお伝えし転勤をお断りなられたとのことです。

この難題山積する歴史の転換期に、成田校長先生が宍戸会長にお願いしたことは、「先輩方の力を借りたい。ぜひ、稚松会の会員を増やしてほしい。」とのことでした。

また、奇しくもこの頃、同窓稚松会の新年会、総会への参加者の数そのものも、年々減少しており、役員一同案じておりましたところ、関東支部が卒業年度別に運営を担当して大盛況とのことを聞き及び、この方法を取り入れて、稚松会活動の活性化を図ろうということになりました。

毎年行われる新年会に、より多くの会員が集えるように、子育ても一段落し、公職も退いているなど、ゆとりの持てる世代でもある六十歳を迎える卒業生「耳順の方々」に、当番幹事を引き受けていただくのはどうであろうかとのことで、今につながる「耳順の会」が誕生いたしました。

この新しい試みによる第一回目の当番「耳順の会」は、昭和三十年卒の先輩方です。

同窓稚松会の運営に携わる「役員」を、一人でも多くのこの「耳順の会」のメンバーにより募っていき、年々役員の若返りを図っていきたいとする趣旨を併せてご理解いただきたいと存じます。

※関東支部の皆様の取り組みについての内容は、「稚松会百周年記念誌」の大槻美代子氏（昭和三十年卒）の寄稿文を参照させて頂きました。

思い出

昭和40年卒
櫻井照子

私達が高校三年生の年に、東京オリンピックが開催されました。当番幹事として「思い出」の原稿依頼を受け、大変戸惑いましたが、渡辺稚松会現会長が同級生のご縁で筆をとる事に致しました。白女の購買部に務めていた同級生の杉山ヨシ子さんから私達の同級会のたびに「耳順の会」の情報をお聞きし、早くからクラス毎に幹事を決め準備を進めて参りました。本部役員の皆様の温かいご指導もあり当日のアトラクションとして同級生の上田（旧姓）京子さんが日本舞踊を披露して下さり、私達としては楽しく盛り上ったという思い出がございます。十数年前の事です。

つなぐ

平成45年卒
辺見美奈子

稚松会便りが届くと活動協力金名簿の上段に目が行く。友人のお母さんが農作業の手を休めて話してくれた言葉を思い出す。「私は、女学校に行かせてもらったことを両親に感謝している。女学校には寮があってとても楽しかった。女学校を卒業させてもらったことは私の誇りで心の拠所だった。」命をつなぐお孫さんは旭賞を受賞した。

私たちが耳順の会の担当の時は、歴史に刻まれた東日本大震災の時でした。開催準備の幹事会ではこの様な時に開催すべきではないと中止が決定。しかし翌朝、「昨日の幹事会では勇気がなくて言えなかった。参加者が少なくても開催して次の担当者に引き継ぐべき。私たちの時に中断させてはならない。」重い言葉に一転開催を決め次の耳順の会へとつなぐことができました。

稚松会から通信費のご支援があって、素敵に歳を重ねた仲間と還暦同窓会が開催できましたことに改めて深く感謝を申し上げます。

つなぐ 未来へ
「耳順の会」

この令和２年度は、コロナ禍故に、稚松会の総会や新年会を開催することの叶わないという大変な年でした。東京オリンピックも延期となりましたことは、皆様すでにご承知のとおりです。

令和２年度の稚松会の「耳順の会」も、この１月に新年会が開催されていれば、平成９年：1997年発足の年から数えますと、2021年（令和３年１月）の会で２３回目を迎える予定でした。

校歌に託された想いと同様に、この歴史を刻みつつある「耳順の会」に対する先輩諸氏の想いや会の由来等についてもこの号で取り上げご紹介いたします。

楽しく元気な稚松会でありたい

昭和49年卒
芳賀幸子

「どれも、しっくりこないわねぇ。」音頭系の楽曲を探している私たちの春三月頃のせりふです。

翌年一月の新年会のアトラクションは、早々と歌い踊ると決定。さて、問題は、楽曲。開場全体に手拍子が沸き起こるような元気のよい「音頭」はないものか。

みんなで、わいわい検討会。三波春夫から、今時の氷川きよし。マツケンサンバにAKB。ドラえもん音頭に、北海盆唄等々。しかし、乗りはよくても、歌詞が今一響かない。これぞという楽曲は見つかりません。

「ええい、無いのなら、自分たちで作ってしまえー」

「おう！」

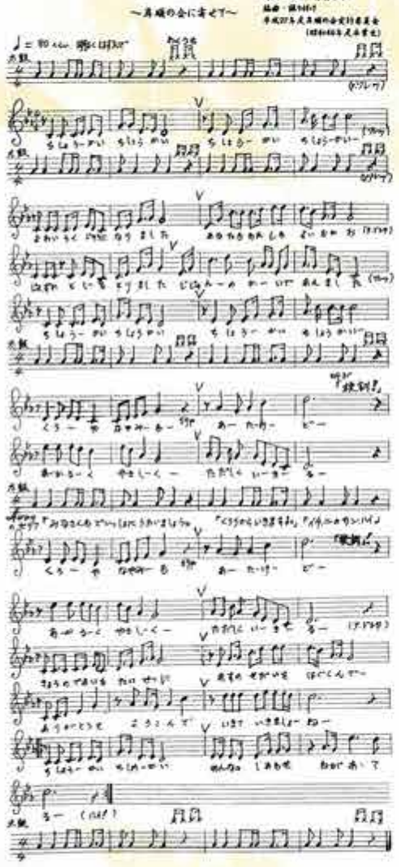
ここに、「稚松会音頭」は、誕生の運びとなりました。

締め太鼓を借り、みんなで踊りの振り付けを考え、大笑いしながら、練習し合った六ヶ月間は、楽しい日々でした。

「今日の出会いを大切に
明日の世代を育んで
ありがとうと喜んで
生きていきましょうね」

この歌詞のように、稚松会が楽しく元気の出る会であることを目指し、学校の応援団として、喜んで奉仕していきたいと皆で励んでおります。

稚松会音頭を踊る
昭和49年度卒
耳順の会



稚松会音頭

作詞・作曲　芳賀幸子
編曲・振り付け
平成二十七年度
耳順の会実行委員会
（昭和四十九年卒業生）

稚松会　稚松会～
一　齢（よわい）六十になりました
あなたも私もよいお顔
上手に歳を取りました
耳順の会で会えました

稚松会　稚松会～
苦労や悩みもそりゃあったけど

※昭和
校訓
「明るく
優しく
正しく」生きる

稚松会　稚松会～
二　今日の出会いを大切に
明日の世代を育んで
ありがとうと喜んで
生きていきましょうね

稚松会　稚松会
みんなの幸せ願ってる
みんなの幸せ願ってる

つなぐ 未来へ
「校歌」

今年は、白河旭高等学校の「現校歌」制定（大正10年：1921年）100周年目に当たります。

100年間も歌い継がれている我が校歌に3番があることをこの機会にご紹介いたします。

校歌について

よき地に学ぶ　はらからよ
すめらみ国の　乙女子の
まことに道を　守りつつ
学びのみちに　いそしまむ
むつみ励みて　もろともに
遠つみおや　慕きたる
心も清き　わが白河の
ほまれを更に　高めなん

県立白河旭高等学校 平成9年

郡立白河高等女学校 大正10年

雅な格調高き詩ですね。

この詩、実は、わが白河旭高等学校校歌の三番の歌詞なのです。

校歌作詞者の浅野清八氏並びに作曲者田中敬一氏については、わが校百周年記念誌作成の折りに、先輩方がいろいろ調べて下さいましたが、詳細が分からなかったということです。

また、編曲者の剣持八千代氏については、本校の旧職員で音楽教諭であったことがようやく分かったとのことでした。

今は、校歌二番までが歌われておりますが、さらに三番までの歌詞があったのかと、いまさらのようにしみじみとした感慨が込みあげます。

楽曲においても、途中で短調に転調するという校歌としては珍しい手法をとっているという点においても、詩の雅な格調の高さを表現するに誠にふさわしく、この詩ありて、この楽曲ありと、今更のように卒業生が誇りとする校歌であります。

同窓生としての誇りと言えば、大正十年から歌い継がれているこの校歌が、男女共学となった現在も校歌であり続けていることでしょう。

平成十六、七年の頃でありましたが、白河旭高校野球部が、福島市の吾妻球場で勝利した折、この校歌が流れました。しかも女声合唱。

「瓊園き　わが白河の
わが学びやぞ
いとなつかしき～」

典雅な歌声が球場を越えてはるか吾妻連邦に届くかと思われるくらいに響き渡ったのです。球場全体が、一瞬にして厳かな雰囲気につつまれてしまいました。

校歌の後の割れんばかりの拍手。

「素晴らしい校歌ですね。」

福島市の方がおっしゃいました。

令和となった今、誇りを持って、高らかに歌い継いでいきたい母校の校歌です。

心も清き　わが白河の
ほまれを更に　高めなん

※校歌三番の内容については、「稚松会百周年記念誌」の浅川なおみ氏（昭和四十三年卒）の寄稿文を参照にさせて頂きました。

親子三代表彰を受けて

平成元年卒業
成井昌子

母は昭和三十四年に入学し、汽車と徒歩により片道一時間半かけて通学したこと、木造校舎で学んだことを思い出話として聞き、育ちました。

その母も喜寿を迎え、当時と変わらず美しい桜のもと、娘の入学式を迎えられたことをうれしく思います。この伝統ある校舎で多くのことを学んでほしいと願います。

現在新型コロナウイルスの対応で大変な時代となりましたが、一日も早い安心した生活を願っております。

最後に「親子三代表彰」を執り行っていただいたことに感謝するとともに、白河旭高校、稚松会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

親子三代表彰式のようす

「親子三代お祝い」対象者

生徒	保護者（旧姓）・卒業年	祖母（旧姓）・卒業年
薄井　咲樹	薄井　周子（星）・S61	星　智枝子（椎名）・S29
柳沼　舞衣	柳沼恵美子（野崎）・H9	野崎　種恵（角田）・S43
成井　茉衣	成井　昌子（橋本）・H元	橋本　静江（広瀬）・S37
三島龍太郎	三島しのぶ（真岡）・S63	真岡　幸子　S34

文武両道
―頑張る白河旭高生―

文芸コンクールで優秀賞を受賞して

文芸部
三年　真船衣鈴

私は今回「心太のように透明になりたい」という句で優秀賞をいただきました。この句は、新型コロナウィルスによる緊急事態宣言が出された頃に詠んだ句です。当時私はマスクやトイレットペーパー不足、マスク警察、不必要な外出をする人、そして何より目に見えない小さなウィルスとの戦いに疲弊し、自身の心がどんどん黒く染まっていくような感覚に襲われました。そんな時に食卓で目にした心太に対し、思ったことを素直に詠んでできたのがこの句です。とてもシンプルな句ですが出品した作品の中で一番思い入れのある作品だったので、賞を取ることができて嬉しかったです。コロナとの戦いはまだ続きますが負けずに前を向いていこうと思います。

伝統を受け継いで

演劇部
二年　尾股朋香

今年度、私たち白河旭演劇部は昨年度に引き続き、県南地区コンクールで最優秀賞、県大会では優良賞、一人が演技賞を頂くことができました。大会に向けて日々、基礎練習や発声などを重点的に行いました。また、部員全員で演技に対して意見を出し合い、より良いものにするために何度も試行錯誤を重ねました。仲間と積み上げてきたものが結果につながって、とても嬉しく思います。新型コロナウィルスの影響で不安定な状況の中、部活動に励み、大会に出場できたことはとても貴重なことです。部活動引退までの残り少ない期間で、あと何回舞台に立てるかはわかりません。しかし、支えてくれる部員や先生方など様々な人に感謝しながら頑張りたいです。

社会貢献活動コンテスト優秀賞

二年三組
「小さなことから始め隊」

私たちは、12月に行われたふくしま高校生社会貢献活動コンテストで、本校のSDGs校内研修や子ども食堂での活動を紹介しました。第6回研修の鴻巣麻里香さんの講演を機に、定期的に子ども食堂に通い、こども達に寄り添う「ビア先生」を目指しました。「小さなことから始め隊」の名前の通り、現状を知るだけでなく、何か行動を起こそうということで、校内に募金を呼びかけ、クラス全員で協力して、子どもたちにクリスマスプレゼントを届けました。そして、この活動を通して学んだことをコンテストで発表し、優秀賞を受賞しました。

私たちが行動を起こすにあたって背中を押してくださった担任の小澤先生に感謝し、これからも活動を続けていきたいです。

東北大会に向けて

剣道部女子
二年　佐藤朱里

私たち剣道部女子は、新人戦県大会で三位入賞という成績を収め、二月に青森県で行われる東北大会の出場権を得ることが出来ました。

私たちは、蒲生先生、橋本先生のご指導のもと日々の練習に励んでいます。

大会では、自分たちの力が最大限に発揮出来るように、技に磨きをかけて、技術や精神の向上に努め、これからの練習により力を入れて取り組みたいと思います。また、共に戦ってきた仲間を信じ、日々ご指導してくださる先生方、いつも私たちを支えてくれる保護者の方への感謝の気持ちを忘れずに戦いたいと思います。

今年度の旭賞受賞者

吉田汐里（よしだ　しおり）

推薦理由：在学中の活動が他の模範と認められ、優秀な成績をおさめた。

齋藤優汰（さいとう　ゆうた）（陵上）

推薦理由：在学中の活動が他の模範と認められ、全国大会および東北大会に出場し、優秀な成績を残した。

稚松会活動協力金の贈呈

白河旭高等学校《稚松会》令和元年度歳入歳出決算書

歳入　〔単位：円〕

科目	決算額	摘要
繰越金	591,100	
入会金	995,000	平成30年度卒業生 ¥5,000×199名(5クラス)
雑収入	13,027	預金利息、稚松会懇親会残金
歳入計	1,599,127	

歳出　〔単位：円〕

科目	決算額	摘要
総務部費	550,373	
入会記念品費	240,660	卒業証書バインダー
渉外費	5,324	弔電(稚松会元会長茨木瑛子さん)
通信費	155,784	総会等案内状、切手代
消耗品費	3,050	事務用品代
印刷費	9,180	親子三代賞状
講習会費	0	
雑費	53,865	総会会場費、高校野球広告代
旅費	22,510	野球応援、支部総会旅費等
事務費	60,000	事務手当
厚生部費	93,086	
新年会準備費	70,000	通信費・諸経費として耳順の会へ
記念品費	23,086	親子三代記念品
事業費	426,152	
部活動援助費	300,000	白河旭高校生徒会へ
旭高校後援会協力金	100,000	白河旭高校後援会へ
褒賞	26,152	旭賞
予備費	0	
予備費	0	
歳出計	1,069,611	

歳入総額　1,599,127 円
歳出総額　1,069,611 円
歳入歳出差引残額　529,526 円

令和元年度稚松会会計歳入歳出決算について上記のとおり報告します。

白河旭高等学校《稚松会活動協力金》令和元年度歳入歳出決算書

歳入　〔単位：円〕

科目	決算額	摘要
繰越金	2,227,366	
活動協力金	2,399,886	2018年　1,218名
雑収入	36	預金利息
歳入計	4,627,288	

歳出　〔単位：円〕

科目	決算額	摘要
稚松会だより費	2,696,556	
印刷費	595,815	稚松会だより印刷
発送費	2,100,741	稚松会だより発送等
諸経費	0	
支部活動補助費	10,000	
支部活動補助費	10,000	白河、表郷支部
総務部活動補助費	28,842	
総務部活動補助費	28,842	総務部活動
文化部活動補助費	39,179	
文化部活動補助費	39,179	文化部活動
厚生部活動補助費	21,035	
厚生部活動補助費	21,035	厚生部活動
予備費	0	
予備費	0	
歳出計	2,795,612	

歳入総額　4,627,288 円
歳出総額　2,795,612 円
歳入歳出差引残額　1,831,676 円

令和元年度稚松会活動協力金会計歳入歳出決算について上記のとおり報告します。

稚松会総会＆新年会の開催について

コロナウイルス感染の状況並びにワクチン接種の状況に応じて、実施の有無（会議のみ懇親会は中止等を含め）並びに実施形態についての適切な対応を図りたいと存じます。

ご遺志寄付

昭和19年卒　山田フサ様（旧姓 石崎）

大切に使わせていただきます。ありがとうございました。慎しんでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

「礎固き　わが白河の
わが学びやぞ
いとなつかしき～」

母校の校歌は大正十年から一〇〇年も歌い継がれているのです。男女共学になっても歌詞も変わらずに。

東京オリンピックが延期に、スポーツ大会イベントは中止、老舗の店仕舞いなど新型コロナウイルスにより、多くのものが姿を消し、人が集うことも自粛が強いられるなど、たった一年で世界中が一変してしまいました。そんなコロナ禍で「稚松会だより」の発行に向けて編集を進める文化部には同窓生からの便りと現役高校生からの原稿が届きます。各分野で活躍する同窓生の様子や頑張る高校生の姿から元気がもらえます。そしてその様子を同窓生の皆様に「稚松会だより」としてお届けできることをたいへんうれしく思います。コロナが終息し同窓生が集い伝統ある誇り高き校歌を大合唱できる日が来ることを願って…　（鈴木）